

令和6年能登半島地震により、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。
また、被災地の皆さまの安全と、一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

編集後記

この度、神奈川県立保健福祉大学誌第21巻第1号では、原著3編、報告7編、総説2編の合計12編の論文が提出され、査読過程を経て掲載に至りました。まず、日々研究に勤しみ、その成果を本誌へご投稿いただきました著者の皆様に、そして、お忙しい中、突然の依頼に快諾いただいた査読者の皆様に、お礼を申し上げます。今年度、本誌には例年に比べ、多く投稿が寄せられ、幅広い分野が網羅され、本学の独自の特長が見事に表現されました。この地道な知の努力の積み重ねは、本学のヒューマンサービスの実現に向けた唯一無二の力となると信じています。

さて、みなさん、今この時代をどのように生きていらっしゃいますか？ロシアのウクライナ侵攻から2年経ち、中東では、イスラエルにより、病院施設などの民間施設も含めた、無差別的なガザへの攻撃が続いています。その中でどんどん膨れ上がっているものは、人々の心の中に広がる憎しみと悲しみばかりです。国内においても、本学の精神とはかけ離れた状況が広がり、政治や社会は煙の中で方向感覚を完全に失ってさまよい続けております。一方で、科学技術分野では最近、私自身の頭の中では、2つの方向性で地殻変動が起きました。一つは、人工知能の驚異的な進化です。そして、もう一つは、人間以外の動物の心に関する動物行動学的研究の新たな展開です。例えば、野鳥のシジュウカラが言語を持つことが確認され、動物言語学という学問分野が誕生したり、魚が自己認知能力を持つことが発見されたりしています。このように、これまで人間固有の能力だと信じられていた能力が、最先端AI技術と動物行動研究という全く異なる両方面から覆されつつあります。時代の大変革の予感の中で、『人間』に立ち戻る本学の理念は、社会との親和性がますます高くなり、社会全体の大きな要求となっていくのではないのでしょうか。私は、そのような視点から、今後の大学誌の更なる発展を期待せずにはられません。

最後に、本誌の発刊に向けて、影なる努力をしていただいた研究委員会及び事務局の皆様に、最上級の感謝を申し上げます、編集後記といたします。

大学誌編集委員長 成 耆鉉

2023（令和5）年度研究委員会 神奈川県立保健福祉大学誌編集委員会
宮芝智子（看護学科）、遠又靖丈（栄養学科）、種田綾乃（社会福祉学科）、藤田峰子（リハビリテーション学科）、
○成 耆鉉（人間総合科）、◎津野香奈美（ヘルスイノベーション研究科）
（◎研究委員会委員長、○大学誌編集委員長）

神奈川県立保健福祉大学誌 第21巻第1号
Journal of Kanagawa University of Human Services
発行 2024（令和6）年3月
編集 神奈川県立保健福祉大学研究委員会
発行所 神奈川県立保健福祉大学
〒238-8522 神奈川県横須賀市平成町1-10-1
☎046-828-2530
印刷所 文明堂印刷株式会社
〒239-0821 神奈川県横須賀市東浦賀1-3-12
☎046-841-0074代

大学誌に掲載された論文（リポジトリに登録された論文を含む）の著作権は、大学に帰属します。著作権法に規定されている私的利用や引用などの範囲を超える利用を行う場合には、神奈川県立保健福祉大学研究委員会事務局（企画・地域貢献課 TEL：046-828-2530）までご相談ください。

※電子メールでのお問い合わせは、附属図書館（library@kuhs.ac.jp）までお願いします。

